

平成22年度事務事業実績及び前期4年間取組評価表

事務事業名	旧飯田測候所庁舎検討事業	会計	一般会計	事業No.	64	施策順No.	46-001
		事業種別	政策・その他	予算科目	0予算事業		
政策	4暮らしと生命を守る安全安心で快適なまちづくり			課等名	企画課		
施策	46 活気ある街づくりの推進			事業期間	開始	19	終了

1 事業の目的

事業の目的は「対象」を「意図」した状態にすることです	対象	橋北地区住民 旧飯田測候所庁舎とその周辺						A十分達成した Bどちらかといえば達成した Cどちらかといえばできていない Dほとんど達成できていない	
	誰、何に	具体的な数値で表すと(対象指標)	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度		
		居住人口 (主たる利用住民として人口を指標とする)	3526	3486	3469	3469	3457		
		旧飯田測候所庁舎とその周辺(面積 m ²)	5142.95	5142.95	5142.95	5142.95	5142.95		
意図	地域コミュニティが維持される。地域で活用できる方針を策定する。								
対象をどう変えるか	意図	事業の成果を具体的な数値で表すと(成果指標)	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度目標	22年度実績	23年度目標	目標達成度
		旧測候所庁舎の利用回数	2	2	2	2	2	2	A
		活用方針の策定	0	0	0	1	0	1	
22年度の目標達成度に対する振り返り【政策的事業のみ評価可】	定期的な利用が継続されており、今後も見込まれる。								

2 手段(具体的な取り組み内容)

事業の制度(仕組み)説明	<ol style="list-style-type: none"> 旧飯田測候所の敷地(土地及び建物)を市が国から取得し活用する事業。 平成19年3月の関東地方審議会での審議を経て、平成19年10月に取得した。 旧庁舎は、飯田市にとって歴史的・文化的に貴重な財産であることから、現状の外観を保ちつつ、地元住民のコミュニティ形成の核として利活用を検討中。 橋北まちづくり委員会では、測候所の歴史を学んだり、仲ノ町との一体的な活用を考える学習会などを開催している。 市では、中心市街地活性化計画での整備を予定している。 		
	事業内容	名称	活動量・単位
22年度事業内容	<ol style="list-style-type: none"> 旧庁舎等の利活用方針検討会議 地域での検討会 地域での利用 	<ol style="list-style-type: none"> 検討会議 検討会 地域での利用 	<ol style="list-style-type: none"> 4回 2回 3回
23年度実施計画	<ol style="list-style-type: none"> 旧庁舎等の利活用方針検討会議 地域での検討会 地域での利用 土地取得(土地開発基金より)・実施設計 		

3 事業コスト

事業費	特定財源	国庫支出金	22年度予算額	22年度決算額	23年度予算額	特定財源内訳、補足事項
		県支出金				
		起債				
		その他				
		一般財源				
		計(A)	0	0	0	
		正規職員所要時間				
		臨時職員等所要時間				
		人件費計(B)		0		
		トータルコスト A+B		0		

4 事業に対する市民や議会の意見

<ul style="list-style-type: none"> 旧測候所が所在する馬場町町内や近隣の町内、または橋北地区からは、旧庁舎を残し、集会所として利用したいとの要望があった。 土地についても全取得し、隣接する東栄公園と一体化した利活用の要望がなされた。 市議会総務文教委員の現地視察を18年4月、平成19年9月に実施した。 H21.12橋北まちづくり委員会から利活用に関する提言があった。

5 行財政改革の取組内容【経常的事業のみ評価】

行財政改革の取組区分	【記載不要】	具体的な取組事項	【政策的事業のため記載不要】
21年度決算と比べての効果額(千円)	【記載不要】	効果額説明(算出根拠、特殊要因)	【政策的事業のため記載不要】

6 前期4年間の取組評価(総括)

上位の施策への結びつき	上位施策の目的	住民組織が自分たちの地域のことを地域で考え、地域で活動し、役割を果たせる組織となる。	施策の成果指標又はムトス指標	地域活動に参加している住民の割合 自主的な地域づくりの活動回数(自治会・まちづくり委員会主催による活動)
この事務事業は施策の目的達成にどのように貢献しましたか	4年間の振り返り	中心市街地活性化基本計画に位置づけ、施設の位置づけを明確化した。		
	後期に向けた課題	具体的な整備方針の決定。		
この事務事業の成果を向上させるためにどのような工夫をしてみましたか	4年間の振り返り	施設自体の利活用について、検討するのみではなく、橋北エリアを今後どのように活かし役割を担っていくのかという視点で、地元においては研究会を立ち上げ、地元からの盛り上がりを期待する取り組みを行った。		
	後期に向けた課題	地元における盛り上がり旧飯田測候所の整備方針のすりあわせ。		
コストを削減するためにどのような工夫をしてみましたか	4年間の振り返り	ゼロ予算事業		
	後期に向けた課題	ゼロ予算事業		
受益者負担の程度、市が関与する程度は適切でしたか	4年間の振り返り	飯田市が所有する財産として利活用について検討を行ってきたが、地元においては研究会が立ち上がってきた。		
	後期に向けた課題	地元の研究会との協働。		
多様な主体の役割の発揮状況 ①その主体は誰で、どのような役割を果たしましたか。 ②その主体が役割を發揮するために、行政はどのような働きかけをしてみましたか、又は、配慮してありましたか	4年間の振り返り	①地元において研究会が立ち上がり、測候所及びその周辺エリアの利活用について、地元が考える機会となった。 ②研究会の立ち上げに関わるとともに、会に参画し共同研究を行っている。		
	後期に向けた課題	①地元研究会との共同研究を深化させ、測候所については具体的に施設整備を進める。周辺エリアの利活用については、地域の意識共有を図っていく。		
全体を通じて	4年間の振り返り	財務省関東財務局長野財務事務所より平成19年9月に飯田市土地開発基金にて取得。H20.7中心市街地活性化基本計画へ位置づけられる。その後、基幹包括支援センター、民間保育所により暫定利用。地元においては、イベント等を通じて利活用について検討を進めてきたが、平成22年度には研究会を立ち上げ、橋北エリアのあり方についての検討会を立ち上げた。		
	後期に向けた課題	地元における検討を踏まえ、橋北エリアの中における旧飯田測候所の位置づけを明確にし、利活用についての方向性を出す。		

7 「対象」「意図」「結果」の関係の確認

事務事業を統合・分割する必要はありますか	ない	対象や意図を修正する必要はありますか	ない	成果指標や指標値を修正する必要はありますか	ある
----------------------	----	--------------------	----	-----------------------	----

8 総合評価・次年度の事業の方向性改善の計画

<input type="checkbox"/> 完了	<input checked="" type="checkbox"/> 拡大	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 別事業に統合	<input type="checkbox"/> 休止廃止	<input type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 目的見直し	<input type="checkbox"/> 事業のやり方改善
-----------------------------	--	-----------------------------	---------------------------------	-------------------------------	-------------------------------	--------------------------------	-----------------------------------